○高等植物分布資料 (91)　Materials for the distribution of vascular plants in Japan (91)

○ヒメバラモミ *Picea maximowiczii* Regel　山梨県北巨摩郡白州町の釜無川上流域大平の海抜やく 1,500 m のところにシラカンバ，カラマツなどと混生して数本自生のあることがわかった。これは山梨県韮崎市の斎藤敬文氏が森林調査中発見されたもので，私に生きた標本で鑑定を依頼してきたので，確認できた。今迄のヒメバラモミの天然分布は長野県下のみで，山梨県下では発見されていなかった。本種のタイプロカリテイである富士山で再発見しようと，一生懸命さがしている人がいる。その人がヒメバラモミではないかという生の標本を数回鑑定したがいづれもイラモミ (*P. bicolor* Mayr) の若木であった。そのご誰も富士山では見つけていない。私は長野県下で採集した標本と山梨県富士山で採集した標本とが混同したものではないかとも考える。しかし産する可能性もある。

○ヒコサンヒメシャラ *Stewartia serrata* Maxim.　群馬県勢多郡東村大字沢入字金山の根本山 (1,197 m) の北方山地にヒコサンヒメシャラ精しくは葉上面は無毛で，下面の脈上とくに主脈に毛の多く生えているトウゴクヒメシャラ (〃 form. *sericea* Hara) が自生していることがわかった。私の大学での教え子の岩崎正幾君が会社の仕事で出張調査中発見したもので，花のある完全な生の標本を持参し私に示され確認したものである。自生地は海抜やく 800 m で，アオダモ，リョウブ，アワブキ，アオハダ，マンサク，シオジ，オオバアサガラなどの森林中に生じている。大きいものは目通周囲 42 cm，高さ 8 m あった。今日まで本種の北限地は丹沢山塊であったが，今度の発見により著しく北限地がのびた。　(東京農業大学，林　弥栄)

□東京営林局：小笠原国有林の植生と学術参考保護林　73頁，1975年12月。小笠原総合事務所国有林課員として2年間勤務した豊田武司氏が執筆したもので，施業計画の基礎として小笠原の森林植生をまとめたものであるが，在島中小笠原の原生林の保護に努力された同氏の意向が保護林の解説に示されていて，本書の大きな特色をなしている。希少種34種の分布と現況，学術参考保護林中における保護の対象となる植物及び一般樹種の解説が述べられている。

研究書ではなく，小笠原の植物相の解説とその保護を主な目的として書かれているので，小笠原の植物を理解するのには非常に便利である。特に62種に及ぶ植物の図は執筆者が画いたもので，小笠原の主要植物をもうらしている。また近縁の種類については在島中確かめた区別点をあげて解説している。今までこのような小笠原植物の解説書がなかっただけに貴重なものである。ただ誤植が多いこと，オガサワラグワと比較にあげたシマグワ，カラヤマグワは引用された勝又氏の原文ではそれぞれロソウ，ハチジョウグワである。市販されていないので入手困難なのは残念である。(山崎　敬)